

富国有徳の理想郷“ふじのくに”づくり

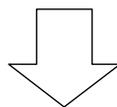
大井川上流部の現地状況報告

2019年12月13日

静岡県

調査目的

- ・直下をリニアが通過する予定の西俣川は特に減水の影響を受け
る可能性が高い
- ・流量の少ない渇水期に減水した場合、魚類や底生生物に対する
影響が大きい
- ・西俣ヤードより上流へ水を戻すことは困難
- ・沢枯れしてからでは遅いため、流量変化を常に把握しておく必
要がある



- ・工事開始前の渇水期かつ降雪期前に西俣ヤードより上の西俣川
及びその支流の状況を確認する
- ・JR東海、国土交通省と現地状況を共有する

行程・参加者



行程

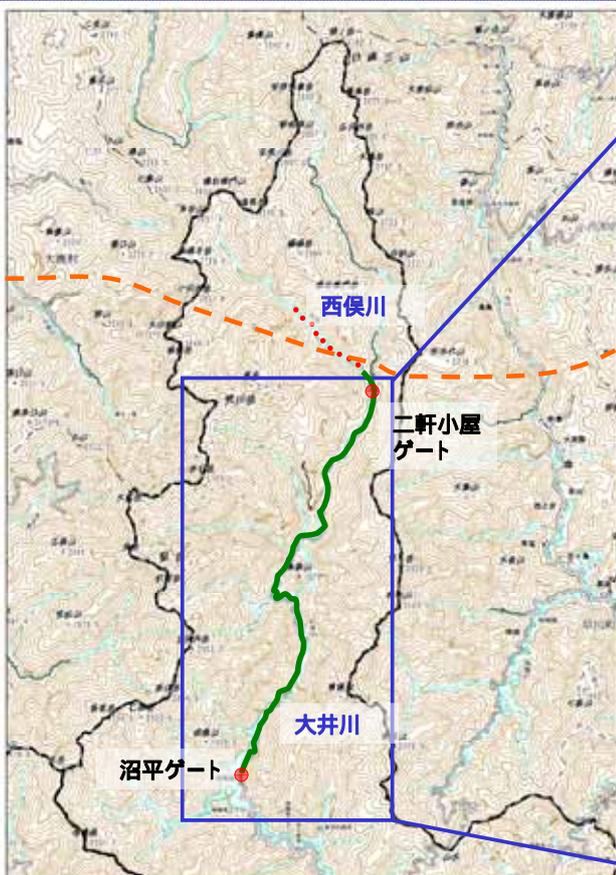
行程	通行場所	所要時間 (概算)
沼平ゲート ～二軒小屋ゲート	林道東俣線	2時間(車)
～二軒小屋発電所	特種東海製紙 管理道	10分(車)
～西俣ヤード		1時間(徒歩)
～蛇抜沢	西俣川	30分(徒歩)
～新蛇抜沢		1時間(徒歩)
		片道計約5時間

参加者

- ・ 県関係 (難波副知事ほか)
 - ・ JR東海関係 (宇野副社長ほか)
 - ・ 国土交通省 (鉄道局横山専門官)
- 約30名

県及び国土交通省は台風19号によるアクセス道の被災状況も併せて確認

行程(林道東俣線)



林道東俣線

延長:約27km

幅員:4.0m

管理者:静岡市

アクセス道の状況 (林道東俣線)



- ・被災箇所は河川内を迂回
- ・全線車両（大型車両を除く）通行可能



4

アクセス道の状況 (燕沢(つばくろさわ))

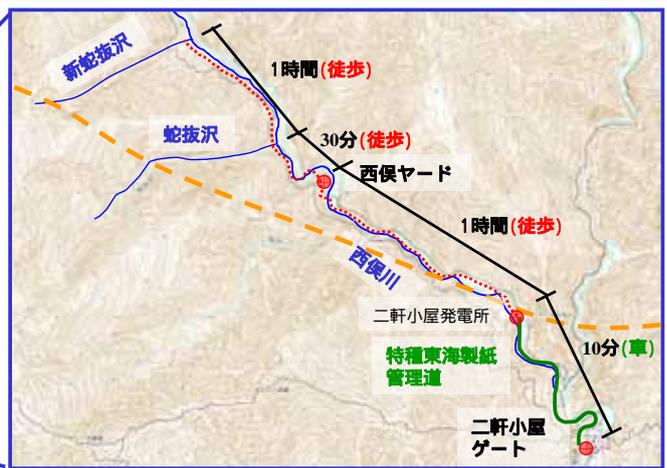
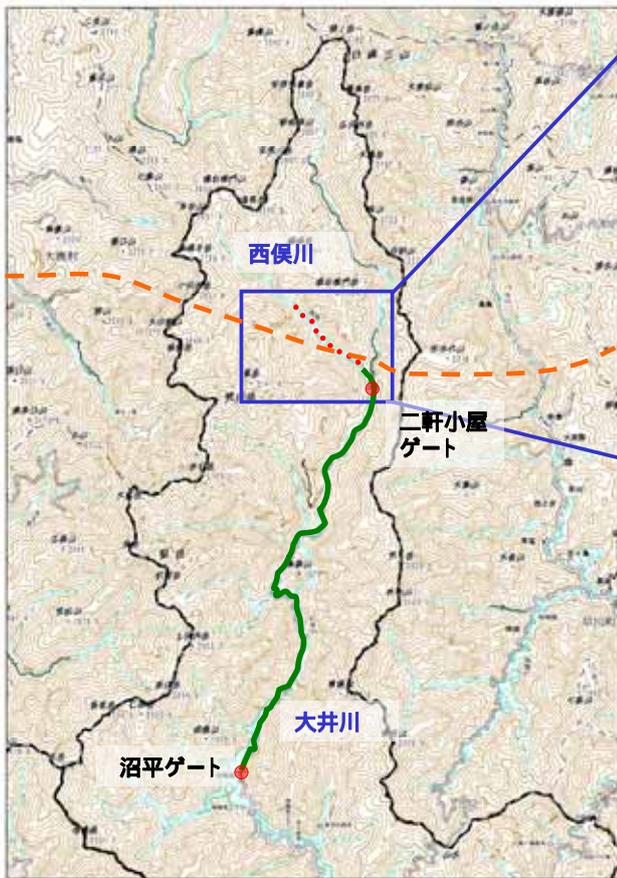


- ・燕沢の南北2箇所が大規模な発生土置き場となる予定
- ・沢から多量の礫質土が発生

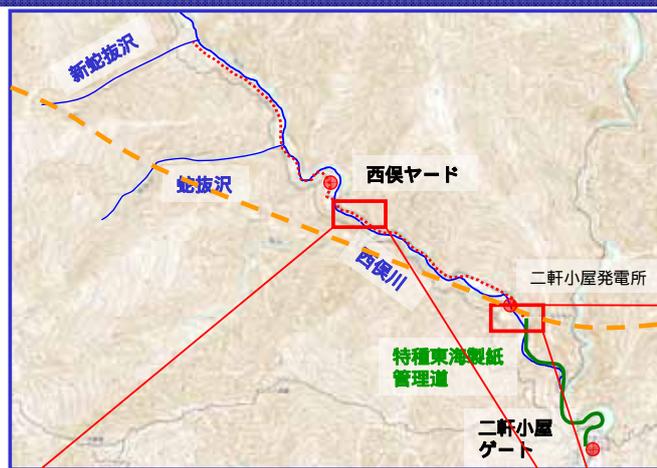


5

特種東海製紙管理道・西俣川



アクセス道の状況 (特種東海製紙管理道)



- 橋の流出の他、多量の崩土や路体の損傷が多数確認されており、復旧には時間を要すると思われる



西俣ヤードの状況



- ・造成地の一部が流出
- ・対岸が大きく崩落
- ・設置済みの建物には影響なし



8

西俣川(西俣ヤード～蛇抜沢)の状況



- ・上流部へは一部渡河してアクセス
- ・川幅は10m程度
- ・水深は30cm程度

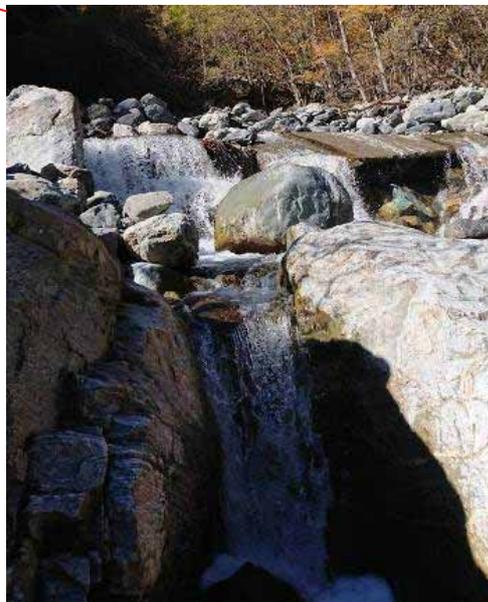


9

支流(蛇抜沢)の状況



- 比較的豊富な常水あり



10

西俣川(蛇抜沢～新蛇抜沢)の状況

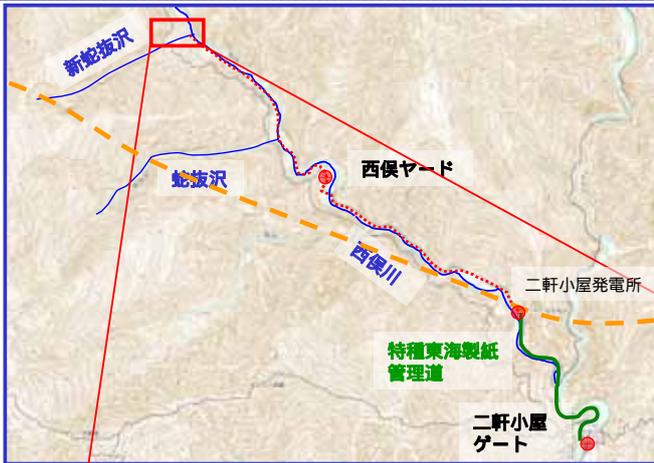


- 川幅 3 ~ 5 m 程度
- 水深 30 cm 程度
- 西俣ヤード付近に比べると水量が大きく減少
(蛇抜沢合流点より上流のため)

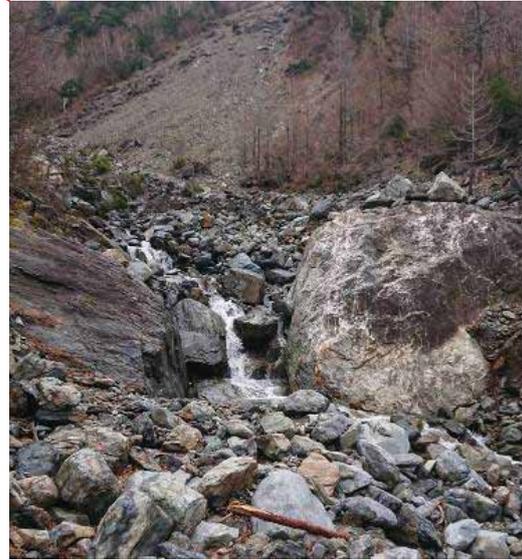


11

支流(新蛇抜沢)の状況



- 小川程度の常水あり
(数日前の計測で $0.05\text{m}^3/\text{秒}$)
- 減水による沢枯れの危険あり

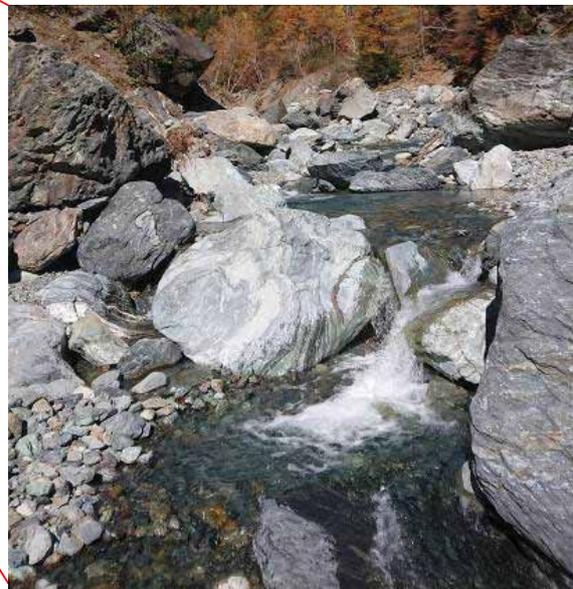


12

西俣川(新蛇抜沢奥)の状況



- 川幅 1 ~ 3 m
- 水深 30 ~ 50 cm 程度
- 更に水量が減少



13

まとめ

- ・ 渇水期の西俣川上流部における水量の少なさを確認し、工事による減水の影響で沢枯れの危険性の高さを実感できた。
- ・ これまで部会で議論されてきた常時観測の必要性を改めて確認できた。
- ・ 県、JR東海、国土交通省の3者で渇水期における大井川上流部の状況を共有できた。
- ・ 今後、モニタリングの場所、頻度、手法等を部会で具体的に検討する必要がある。